

第10回全国和牛能力共進会会場へのご案内

最終比較審査会期：平成24年10月25日～29日

「和牛維新！ 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」をテーマとする第10回全国和牛能力共進会の最終比較審査がいよいよ目前に迫って参りました。

最終比較審査会場には、全国38道府県より種牛305頭、肉牛175頭が出品される予定です。全国の産地が誇る精鋭が競う場であるとともに、生産者と消費者がともに集う交流の場として、さまざまな催しも企画されています。

今回の共進会は、10回目を迎える節目の大会であり、口蹄疫や東日本大震災、原発事故からの和牛産地の復興を祈念し、日本固有の知的財産である和牛の魅力在全国に発信していこうという大きな目的を持った大会となっています。

多くの会員の皆様に、この共進会を盛り上げていただきたいと考えておりますので、ぜひご来場ください。

※会場の概要や詳しい行事日程等につきましては、第10回全国和牛能力共進会長崎県実行委員会ホームページ (<http://zenkyo-nagasaki.com/>) をご参照ください。

※なお衛生上の理由により、一般の方は枝肉の参観はできません。肉牛の部の結果については、種牛会場に展示いたします。またセリ会場にて肉牛の部のセリをご観覧いただくことができます。

主要行事ならびに審査日程

○種牛会場(ハウステンボス)

日時	行事
10月25日	午前 開会式
26日	午前 第1区(若雄) 審査
	午前 第5区(繁殖雌牛群) 審査
	午後 消費者セレモニー
27日	午後 第2区(若雌の1) 審査
	午後 第6区(高等登録群) 審査
	午後 第3区(若雌の2) 審査
28日	午後 第7区(総合評価群) 審査
	午後 和牛審査競技会
	午後 第4区(系統雌牛群) 審査
	午前 第1区(若雄) 等級決定
	午前 第2区(若雌の1) 等級決定
	午前 第5区(繁殖雌牛群) 等級決定
29日	午後 肉牛の部展示説明
	午後 第3区(若雌の2) 等級決定
	午後 第6区(高等登録群) 等級決定
	午後 第7区(総合評価群) 等級決定
	午後 第4区(系統雌牛群) 等級決定
29日	午前 上位入賞牛パレード
	午後 名誉賞決定・展示説明
29日	午後 閉会式

○肉牛会場(佐世保市食肉地方卸売市場) セリ会場(佐世保市体育文化館)

10月27日	午前 枝肉審査
28日	午前 等級決定
	午後 枝肉セリ

各会場の位置図



会場案内

- 佐世保メイン会場 (種牛の部)
長崎県佐世保市
ハウステンボス
- 肉牛の部会場(審査会場)
長崎県佐世保市
佐世保市食肉地方卸売市場
- 肉牛の部会場(セリ会場)
長崎県佐世保市
佐世保市体育文化館
- 島原会場
長崎県島原市
島原復興アリーナ

和牛だより

第41号 平成24年9月

【発行者】公益社団法人全国和牛登録協会
京都市中京区烏丸通御池上ル
二条殿町 546-2
<http://www.zwtk.or.jp/>



継続は和牛改良の源

公益社団法人全国和牛登録協会 会長 向井文雄

全国の会員の皆さんには、世界的な経済をめぐり極めて不透明な状況が続き、さらには2、3年来続発する天変地異に加え、安全神話ももたらした原発事故による複合災害という厳しい生産環境と地域経済の中で登録事業を通じた和牛の改良増殖にご尽力いただいておりますことに敬意を表するとともに、被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

全国和牛登録協会は本年4月1日より公益社団法人となり、新たな一步を踏み出しました。協会が60有余年にわたって進めてきた登録・育種事業が和牛経営の向上による地域社会の活性化、ひいてはわが国の安全安心の食料生産に大きく貢献すると評価されたものであります。現在、厳しい環境にありますが、協会役職員と生産者・関係者が一丸となって育種改良基盤の強化など各種の公益事業を推進し、和牛の価値をさらに高め、産地の活性化に貢献することが、会員各位の負託にこたえ、ひいては良質の和牛肉の安定供給のために欠かせない使命であるとの決意を新たにしております。

半世紀に及ぶ登録事業の経緯をたどっていると、高浜虚子の

去年今年貫く棒の如きもの

という俳句が思い出されました。この句は昭和25年12月に詠まれたもので、「去年今年(こぞことし)」は「新年」を表す季語です。新しい年を迎え、時は確実に移りゆくとも決して変わらない強い信念が心の内に棒のようにまっすぐに貫いている、とでも理解するのでしょうか。

時代は終戦から5年、ようやく復興へ向けて歩みだし、戦後の混乱期を生きる覚悟がしのばれます。この年は、生産農家を主体とする会員組織として協会が設立されて2年目の時期とも

重なり、多難な時代に全国統一した登録制度を確立し、育種改良により和牛をわが国農業の基幹作物に育て、和牛生産経営を安定化させるといふ先人の強い意志にも相通ずるものを感じざるを得ません。この創設期に登録協会が取り組んだ多くの事業が、今では当たり前前の制度や技術として普及しています。時間は常に流れ揺らいでいますが、意志が実践され、継承されて初めて伝統といえるのかもしれない。わが国を代表する様々な伝統芸術や工芸も新しきものを柔軟に受け入れつつ伝統の本質を次代に残すという継続する意志の力のたまものでしょう。伝統工芸であれば製作品として代々伝承されるわけですが、和牛は遺伝子とそれが発揮できる生産環境をより良く継続するという意志そのものが和牛という伝統を支えるものです。

全国和牛登録協会が、設立以来半世紀以上にわたり社会環境に応じた目標を掲げて、育種組合や改良組合活動、産肉能力検定事業による種雄牛造成と改良基礎雌牛集団の造成に取り組んできたことが、今日の和牛の評価につながっています。それは、わが国固有の家畜である和牛という伝統的資源を維持するために、地域に受け継がれてきた経験知に新しい科学的知見を柔軟に取り入れて、愚直に継続した意志の成果であり、和牛関係者と多数の会員による長年にわたる熱意と努力の結実であると言えます。信用を登録の原点とし、登記登録事業を厳密に遂行することによって和牛の血統と能力を保証するという信念により、時に会員である生産農家の皆さんに規則の励行や運用上厳しいお願いをせざるを得ないこともあります。ともすれば、品種の成立時から現在の和牛のように高い評価を得ていたかのような錯覚をいただいている方々も

いますが、それは大いなる誤解であり、公益社団法人としての新しいスタートに際して、今後とも和牛の価値を維持・向上させていくために会員各位の一層の精進をお願いするゆえんであります。

協会としては、国際化し、価値観が多様化する社会を睨んで和牛の血統・外貌・能力に基づく登記登録事業を進めるために、遺伝の本質であるDNAのデータベースの構築に取り組んでいます。登録による育種改良を協会の憲章としている限り、親から子、子から孫へ伝わる遺伝子の流れを追跡できる体制を作り上げることが、不透明感を増す生産環境下で和牛の生産履歴を保証するための要であり、目先の利益や簡便さを理由に先送りは出来ない事業であると考えており、関係者のご理解とご協力をお願いします。

いよいよ5年に一度の、和牛関係者にとって一大イベントである全国和牛能力共進会の最終審査が迫って参りました。一般の人々にとって、和牛人の全共の開催にける熱意は一種不可思議なエネルギーのように受け取られているようであります。が、これこそ和牛へのこだわりの発露と言ってもよいかもしれません。

和牛界が一致団結して、日々の改良増殖の成果と飼養管理技術の到達度を競い、明日の和牛生産への一步を確かめ合う舞台が全国和牛能力共進会であり、岡山県で開催された第1回全国和牛産肉能力共進会から第10回長崎大会まで、和牛改良の方向を牽引してきた共進会であり、実際には昭和28年広島県において開催された全国和牛共進会(第2回は昭和33年愛知県において開催)から数えると60年の歴史を刻み、改良・改善を目標にした家畜の共進会は世界的

にも稀有なイベントであり、まさしく継続する力が和牛の生産現場における改良増殖や生産技術の向上普及に大きな責務を果たしてきたと言えます。

第10回長崎全共の開催テーマは「和牛維新！地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」です。地域の風土に適応した繁殖性や飼料利用性などの種牛性に優れた生産性の高い和牛集団を造成し、本物のおいしい和牛肉を食卓に安定して供給できる和牛の改良増殖を進め、魅力ある和牛経営を築き、生産者と消費者の交流をはかる、という欲張りな狙いが込められています。

和牛は半世紀以上にわたって幾多の山や谷を越えて進歩の足跡を示してきました。しかし、社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、品種のさらなる育種改良を求め続けます。美味しい和牛肉のために脂肪交雑も蓄積量から質の時代に、さらには嗜好や料理法の多様性に応えるためには高級部位の割合の高い「枝肉の質」の改良を目指さなければなりません。近い将来のさらに進歩した和牛像を展示するのが全共であり、昨年6月以来1年半にわたる長い会期の集大成が長崎県での最終比較審査であり、地域を代表する出品者と和牛の檜舞台であります。口蹄疫や東日本大震災、原発事故からの復興を祈る舞台でもあります。晴れの舞台を一層実りあるものにするために、地域をあげて飼育管理技術の研鑽に努めていただき、継続した取り組みこそが地域の和牛の将来を保証するという強い信念を持っていただき、これから1ヵ月間の活動に取り組み、がんばる和牛の姿を全国に届けていただくことを切にお願いいたします。

本会新役員体制について

平成24年6月27日の第66回通常総会において理事・監事の改選が行われました。新役員体制は下記の通りです。今後とも当協会事業の推進にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長	向井 文雄	理事	平木場宗一	理事	松田 辰郎
副会長	新藤 秀逸	理事	穴見 盛雄	理事	永福 喜作(新任)
専務理事	吉村 豊信	理事	佐々木里士	監事	高嶺 英康
理事	福田 稔	理事	高橋 修	監事	本田 良智
理事	渡部 幹雄				

平成24年度事業計画について(抜粋)

協会が今年度に取り組む事業のうち主なものを下記に抜粋いたします。

今年度は、いっそう厳しい協会運営が予想されますが、農林水産省をはじめ行政機関や関係諸団体との連携を強め、世界に誇れる和牛の発展に貢献する事業を展開して参ります。

■新審査標準の施行と証明書類のA4版化について

平成24年4月より新しい種牛審査標準に基づく登録審査を実施するとともに、偽造防止にも配慮した登記・登録証明書のA4版化を実施します。

■第10回全国和牛能力共進会について

生産性の高い雌牛集団の整備、牛肉の美味しさに係わる指標についての実証展示の場として、また、生産者相互並びに消費者との絆の強化を図る機会として、全力を挙げて取り組みます。

■和牛改良組合の育成強化について

和牛改良組合育成強化研修会を、東部ブロック(山形県)、中部ブロック(長野県)、中四国ブロック(兵庫県)、九州ブロック(熊本県)で開催します(中四国ブロックについては、5月21日~22日に開催いたしました)。また、相互交流のための女性部研修会を開催します。

■各種遺伝情報の解析とその有効利用について

各研究機関と共同開発してきたDNA解析技術を用い、和牛DNAデータベースの構築を一層推進し、遺伝子型検査体制の整備とDNAデータベースの活用方法の検討に取り組みます。

■組織強化並びに財源確保について

登録・改良事業の円滑な実施に資するため、公益社団法人としての社会的役割を再認識しつつ、時代に対応した組織のあり方について検討し、組織強化と財源確保の方策の実現に取り組みます。

平成23年度優良和牛改良組合の表彰について

「認定和牛改良組合および育種組合表彰規程」並びに和牛改良組合強化委員会の推薦に基づき、平成23年度の優良和牛改良組合の表彰を行いましたので、表彰組合をお知らせします。

今後とも、改良組合活動をはじめとする地域の改良活動を通じた繁殖能力の向上に取り組んでいただきますようお願いいたします。

①分娩間隔の部

組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の平均値が全国の上位15組合について表彰を行いました。

北海道	新ひだか町静内和牛生産改良組合
〃	浦河町和牛改良組合
〃	日高町和牛生産改良組合
〃	更別和牛改良組合
岐阜県	南飛騨和牛改良組合
兵庫県	美方郡和牛改良組合
島根県	弥栄村和牛改良組合

島根県	西いわみ和牛改良組合
〃	能義郡安来市肉用牛改良組合広瀬支部
長崎県	小値賀町和牛改良組合
〃	鷹島町和牛改良組合
〃	東彼和牛改良組合
〃	宇久町和牛改良組合
〃	上志佐地区和牛改良組合
鹿児島県	根占町和牛改良組合

②子牛生産指数・飼養管理技術の部

子牛生産指数の育種価評価において、組合内の農家による農家の効果が高かった5組合について表彰を行いました。

北海道	鶴川町和牛改良組合
福島県	大玉村和牛改良組合
長崎県	千々石町和牛改良組合
〃	今福・調川地区和牛改良組合
宮崎県	佐土原町和牛改良組合